加工含めパッケージ輸出に道

まず長崎県から要望を

フグ食解禁、中国で活発化

民主・大久保
参院議員に聞く

中国でのフグ食解禁への動きが活発になってきた。8～9日に訪中し、大連で海洋漁業局や漁業協会の幹部らと情報・意見交換をしてきた長崎県選出の民主党の大久保潔重（ゆきしげ）参議院議員に、中国でのフグ食解禁の見通しなどを聞いた。大久保議員は党副幹事長で、内閣委員会筆頭理事。

◇　◇

百聞は一見にしかず。想像以上に、中国人はフグが好きなんだなと感じた。大連の海洋漁業局と海洋漁業協会、官と民のトップと会ったが、フグ食解禁に向けた動きをバックアップしてくれていることに心強く感じた。

天正実業有限公司の養殖場も見てきた。何しろスケールがでかい。仮にフグ食が解禁になれば、養殖フグを増産するだろうから、そういう圧力に地元・長崎が押されるのではないかとの懸念を持っていたが、訪中後は、フグ食が解禁になって中国人の胃袋を満たすとなると、相当な供給量が必要になってくる。長崎産とは競合はしないのではないか。むしろ輸出に転じることができるのではないかと考えるようになった。また、調理師はじめ人材や機材が必要になってくる。日本の加工の技術が必要になるので、調理師などを含めたパッケージで輸出できる。必ず需要はある、と強く感じた。

課題を持ち帰って1週間。党内ではこれから。幹部にも相談をして、農林水産部門会議や水産政策ワーキングチームなどに上げることになるだろう。水産庁とも議論をしたが、長崎県からコンセンサスとして、要望が上がってこないから、水産庁も動きづらいという。私も、国会議員の立場で長崎県に要請していきたい。

「野田総理から李克強副首相にフグ食解禁の要請文が出ればいいですけどね」と言っていたが、はっきり言ってどこまで本気なのかわからない。その前に、民主党としてのコンセンサスを得なければならない。今の段階で、党として政府に要請文を出すよう求めることができるかというと、まだだ。クリアしないといけない問題が多々ある。県から党支部に上げ、党支部から党に、そして、党から水産庁に要望を上げていくのが一番いいと思う。

思っていた以上に、中国サイドはフグ食解禁を望んでいると感じた。中国側へはフグ食の解禁への動きを「進める」と回答した。キロ単価はあまり変わらなかった。運賃分は日本の安全・安心、調理師の技術、加工技術などの付加価値で上乗せしていけばいい。採算はとれる。一緒にやっていこうということで、合意はできている。